



つじ いちろう  
**辻 一郎 教授**

～ 公衆衛生学分野 ～

講義題目

**健康寿命の延伸を目指して**

**【略 歴】**

1983年 3月 東北大学医学部卒業	2002年 4月 東北大学大学院医学系研究科教授
1983年 4月 在日米海軍医療センター	2015年 4月 東北大学医学系研究科副研究科長・ 医学部副学部長（併任 ～2017年3月）
1984年 4月 東北大学医学部附属病院助手	2017年 4月 東北大学大学院医学系研究科 公衆衛生学専攻長（併任 ～2021年3月）
1989年 4月 東北大学医学部助手	2023年 3月 退職
1991年 7月 米国ジョージ・ワシントン大学公衆衛生学部疫学科研究員	
1993年 4月 東北大学医学部講師（復職）	
1996年 6月 東北大学医学部助教授	

**【研究業績等の紹介】**

辻一郎教授は、1983年に東北大学医学部を卒業され、東北大学医学部附属病院鳴子分院でのリハビリテーション臨床研修の後、1989年より公衆衛生学の道に進まれました。1991年から米国に留学され、帰国後の1993年より東北大学医学部講師、1996年より同助教授、そして2002年に東北大学医学部教授に就任されました。

辻教授は「健康寿命」という概念・用語を提唱され、健康寿命の延伸に向けた疫学研究と政策提言を行いました。辻教授は1995年に、仙台市の高齢者約3千名の日常生活自立度の推移をもとに、地域在住高齢者の健康寿命を日本で初めて算定されました。さらに、高齢者に対する運動訓練の効果を評価するためのランダム化比較試験（シルバーセンター研究）、高齢者の総合的機能評価と地域介入（鶴ヶ谷プロジェクト）、大崎コホート2006研究などを実施され、その成果は国の介護予防事業や国民健康づくり運動「健康日本21」などで活用されています。

辻教授は、宮城県コホート・大崎国保コホートという10万人規模の研究データを活用して、様々な曝露要因（生活習慣・社会心理要因・健診成績など）と様々なアウトカム（がん・循環器疾患・要介護・認知症・死亡・医療費）との関連を解明され、その成果は国内外から注目を集めています。

東日本大震災の発災から 50 日後の 2011 年 5 月 1 日に、辻教授は研究科内に地域保健支援センターを立ち上げて、被災者の支援と健康調査に注力されました。そこで約 8 千名の被災者の生活環境と健康状態などを 10 年間にわたって毎年調査し続けるという、世界にも類のないパネル調査を実施されました。これにより、数々の論文発表を行うとともに、被災者支援策を提言されました。

以上の功績により、辻教授は日本医師会医学賞などを受賞されました。

一方、辻教授は、医学系研究科公衆衛生学専攻の設置（2015 年）に中心的な役割を果たされ、さらに副研究科長や公衆衛生学専攻長を務められるなど、研究科の発展に尽力されました。

また辻教授は、厚生労働省・厚生科学審議会「地域保健健康増進栄養部会」部会長、同「がん登録部会」部会長、同「健康日本 21（第二次）推進専門委員会」委員長などを務められ、国の健康政策の立案・評価をリードされました。健康日本 21（第二次）の最重要目標は「平均寿命の増加を上回る健康寿命の増加」であり、辻教授はその達成に向けて多大な貢献をされました。